日本経済学会 2015 年度春季大会報告論文

1990 年以降の男女計 4 年制大学進学率の推移とその背景
: 少子化、雇用環境と高学歴指向

大井方子（高知短期大学）*

要旨

1990 年以降の日本の男女計 4 年制大学進学率の推移の規定要因を分析した。この 20 年間で進学者が 1 割ほど増えているがそれは、高学歴指向と名付けた長期の増加トレンドと、少子化による減少傾向の 2 つの成分に分けることができた。進学率に直すと、両者の寄与率はそれぞれ 50%であった。つまり、高学歴指向の影響が大きい。ただし、この長期トレンドは、機会があれば就職したいというものも含むものでもある。なおこの回帰分析は非常に説明力が高い。また、2006 年からのいざなみ景気の時とその直前において、雇用が生ずれば進学ではなく就職に向かうので、進学者の増加はないとう現象が生じていることがわかった。

*高知県公立大学法人高知短期大学。同法人高知県立大学兼務。
〒780-8516　高知市永国寺町 5－15　E-mail: oimasako@cc.u-kochi.ac.jp